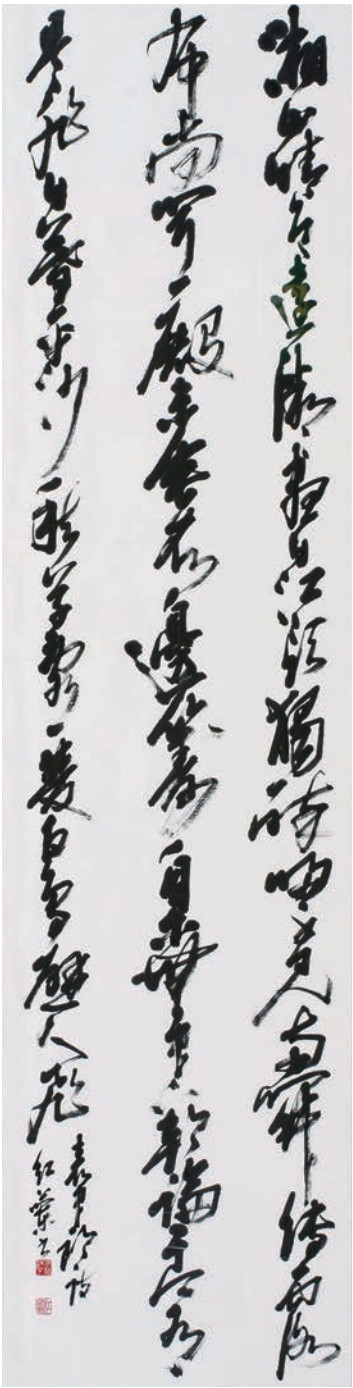
公益社団法人
福岡県美術協会会報誌［ファス］
The fas 68
12.10 winter 2024
〒810-0001福岡市中央区天神5丁目2-1
公益社団法人 福岡県美術協会（福岡県立美術館内）
tel:092-713-4200 fax:092-791-1472
E-mail : fasartseven@wing.ocn.ne.jp
https://fukuoka-ken-art-society.com/
X(旧 Twitter)@fasartseven

令和6年度 第79回 福岡県美術展覧会 〈会員の部〉

洋画 牟田 志津子
「渾沌」
福岡県美術協会賞

この度は、思いがけず素晴しい賞をいただき感謝いたしております。この頃耳にするのは自然災害、戦争など暗い気持ちになります。そんな中、佐賀城の堀にこの猛暑にも負けず咲いているハスの花を見た時、渾沌とした水の中から凛と咲いているハスの美しさ強さに、世の中の平和を願いたい気持ちで描きました。



書 伊藤 紅蘭
「袁中郎詩」
福岡県美術協会賞

この度は思いがけない賞を頂き有難うございました。
毎回、紙と筆の緩急の線質の違いを発見し苦労しますが元気な体に助けられ励んでいます。又、今後の課題も見つかり学んでいきます。ご審査いただきました先生方に感謝申し上げます。

工芸 能隅 厚生
六ツ目菊漆仕上「あい」
豊田勝秋賞

この度は豊田勝秋賞をいただきありがとうございます。
今回の作品は、巾の狭い竹ヒゴを束ねて編みました。
竹ヒゴの製作本数は大幅に増えましたが、その分色の変化を加えることができました。
今後も変化に富んだ作品を制作してまいります。

日本画 **森田 秀樹**

「向日葵㈠」

福岡県美術協会賞

モチーフは、向日葵。小さな種から芽を出して、3カ月程で巨大に成長し、圧倒的な存在感の花となる。制作は、かたちを線でとらえて極力薄く墨を重ね、色数は少なく表現した。なお、和紙独特な風合いや、紙の縁の面白さを活かすように、小さ目のベニヤパネルに張り込み、作品の浮遊感が出るように仕立てた。

写真 **福島秀和**

「らんまん」

福岡県美術協会賞

この度栄えある福岡県美術協会賞を頂き、まことに有難うございます。

作品は日本画のイメージで仕上げました。枝垂れ桜の妖艶な花弁が幾重にも重なり、春爛漫の雰囲気を表現できればと思いました。選者が安珠さんになり、偶々お目に留まったのではないかと思います。これを機会に励み、自分の美的世界観を磨いていければと思っています。

書 **宮園 敏子**

「めぐりあひて」

岩田屋三越賞

平安の昔から脈々と続いて来た日本独自のかな文字が大好きです。今回の作品は今年注目の大河ドラマ「光る君へ」にあやかり紫式部の歌を書こうと決め、その後は自由に書き進めました。いつも構成と最後のまとめに悩むところですが、しっくり決まったでしょうか。かなは美しい紙と墨のコラボも楽しめる最高の芸術だと思います。

彫刻 **灰塚 みゆき**

「ハミングバード」

安永良徳賞

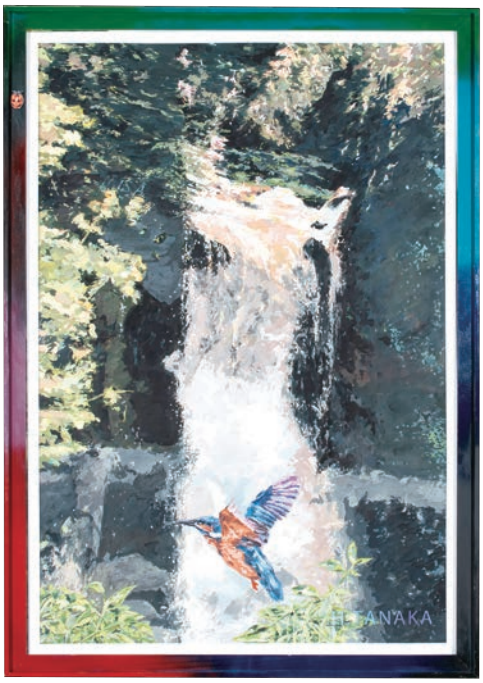
鳥が枝にとまり、何かの実をついばんで、飛び立つところを見かけました。俊敏で優雅な動きに目を奪われました。走ったり飛んだりするスポーツ選手の映像を見て、その軽やかさに憧れました。自在に動きたくとも自分の身体は中々重く、重力に負けてしまいますが、せめていつか、さか立ちぐらいはできたらいいなと思います。

デザイン **中村 美香**

「Life - 人類へ、最後の警告」

福岡県美術協会賞

この度は身に余る賞をいただき誠にありがとうございます。今年のデザイン部のテーマは「Life」。異常気象、戦争、核問題、食料危機と人類の行いが、地球上のすべての命を奪おうとしています。そして今こそが人類へ最後の警告の時であると感じています。この時を、ミシンを使って糸で布に描写しました。



洋画 **田中 廣文**

「初夏の頃」

青木寿賞

今年の夏は猛暑が続き県展の観覧に来られた方に少しでも涼を感じていただければと思い水性絵の具を使い出来るだけ簡素に描いてみました。滝の音を表現出来たか？滝の水が光で輝き、そして初夏の緑を強調しました。色彩的におとなしめだったので、カワセミ（鳥）をアクセントとして描き足しました。

彫刻 **田中 美貴**

「UNTITLED 2024」

豊福知徳賞

この度は賞をいただきありがとうございます。今回は正直なところ思っていた以上に時間もとれず、材が大きく、悩み思案する間もなく追われるように作品を仕上げました。余計なことを考えず、直感のままにチェンソーで形を落としていくことを楽しめた気もいたします。この感覚を忘れずに、今後も精進して参りたいと思います。

工芸 **直野 由利子**

「草花文鉢」

岩田屋三越賞

私はいつも身近に咲く草花を文様として作品を作っていきますが、今回のあざみもどう表現するかデザインするか悩みました。

ラテックスで細いあざみの葉の棘や花の線を描くのが大変でした。黒釉もできるだけ艶をなくし濃淡だけで表現しました。器の中の凛としたあざみを感じていただけたらと思います。

日本画 **小方 一憲**

「陽光」

山本文房堂賞

水墨画の真髄は、何といっても墨の濃淡を駆使して表現する絵画にある。今回は題材を「向日葵」と決め現代の混沌とした世相を重ね合わせながら「希望の光」に焦点をあてた。大輪の花、大きな葉は一気呵成に筆を走らせることに集中。

天を仰ぐ蕾は希望の光に向かって伸びる。賞を頂けたことに感謝しさらに精進したい。

彫刻 **松永 慎一郎**

「旋」

冨永朝堂賞

今回の作品は旋。ひと回りして元に戻るという意味らしく、形に相応しいのでこれに決めた。形先行で習作をして、タイトルはほとんどが後付けになる。漢字ひとつのタイトルが好きだ。あれやこれやと考えてはみるものの、いつの間にか元に戻っている自分に似ていて気に入っている。

それにしても今年は暑かった。

書 **中島 繻苑**

「白鳥は哀しからずや」

山本文房堂賞

篆刻は篆書で刻すことが多いですが、これまで何度か短い詩文を漢字仮名交じりで表現し出品してきました。篆書による造形美、面白さは勿論あるのですが、「見てすぐわかる、心に響く」のは日本語です。今回は横広の印材に界線を入れ、すっきり見えるよう、疎密感が出せるよう意識しました。さらに模索し続けたいと思います。

第79回 福岡県美術展覧会を振り返って

福岡県美術協会　理事長　小田部 黄太

本年も９月３日（火）から９月 29 日（日）に、福岡県立美術館において第 79 回福岡県美術展覧会（以下「県展」）を開催いたしました。

今年の公募へも、多くの優れた作品、意欲的な作品が出品され、私も審査に立ち会いましたが、厳正にそして活気のある審査が行われ、入賞作は言うに及ばず、入選作にも多くの見るべき作品が並び、会員の部の展示も合わせ、今回も素晴らしい展覧会になったと感じております。出品者の皆様、そして協会会員の皆様はじめ、美術館スタッフ等関係者の皆様に心から御礼を申し上げます。

さて、今回の出品数は 2,383 点、前回が 2,441 点ですのでやや減少している状況は続いております。今回から各部会の合評会を美術協会が主体となって運営致しましたが、概ね好評をいただいたと感じております。

また、県展全体の財務状況改善の為、今回出品料の値上げを行いました。しかしながら、大学・専門学校生については据え置き、高校生については千円に値下げいたしました。加えて、福岡県内の高等学校等を卒業された方については、県外在住者の出品を受け入れる等の取り組みを今回より始めました。写真部門の WEB 出品もまだ２年目で、まだまだ多くの出品につながっているとは言えません。これらの取り組みにつきましても状況を把握しつつ、必要な改善につなげてまいりたいと考えております。

更に、巡回展につきましても、各地域の展示会場の実情等もふまえ、前向きに見直しを検討する時期に来ているというご指摘もございます。

いずれにいたしましても、「県展」の諸々の課題を明快にし、令和 11 年の大濠公園の新県立美術館の開館に向け、より魅力的な「県展」にしていくべく、協会として果断に取り組んでいくことが求められております。次年度の第 80 回展に向け、会員の皆様にも様々にご意見やアイデアなどをいただきながら、より魅力的な「県展」、より良い美術協会にすべく、会員の皆様のご助力をよろしくお願いいたします。

第 79 回県展 書部門 合評会

第 79 回県展 洋画部門 合評会

第79回 福岡県美術展覧会〈巡回展〉

今年度の県展の終了後、例年通りに各地域で巡回展が開催されました。各地域の会場それぞれに案内のチラシやポスターを作成されて、巡回展を盛り立てておられます。各地域では美術協会会員各位のご協力のもと実行委員会を立ち上げて、搬入展示搬出他多くの運営にご尽力いただいています。

特に巡回展においても工夫を凝らした合評会の開催も行われています。各地区の巡回展が担っている美術の普及振興活動は、毎年の地道な努力に支えられています。

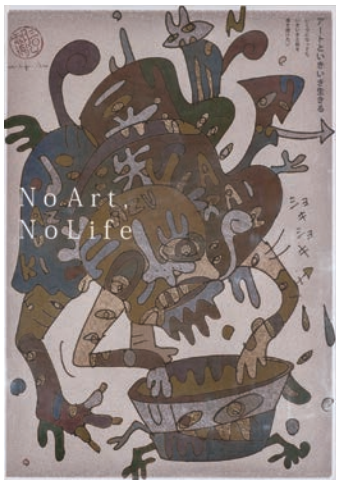
筑後展
10月6日～12日

筑豊展
10月16日～11月3日

宗像展
11月6日～16日

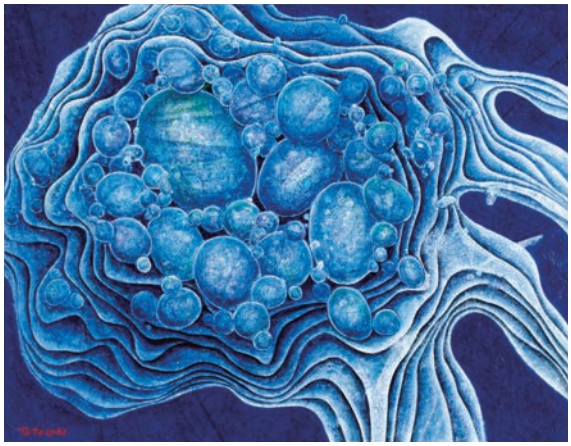
北九州展
11月20日～24日

デザイン　増本 大二郎「No Art, No Life」岩田屋三越賞



この度は岩田屋三越賞を受賞させて頂き、誠に有難うございます。

デザイン部門のテーマは「Life」。くらしや環境問題など様々なアイデアが浮かびましたが、3年前に他界した祖母が90歳を過ぎても楽しくアート作品を制作していた姿に着想を得て、「アートといきいき生きる」をコンセプトにポスターを制作しました。



洋画　立石 洋子「連鎖する」山本文房堂賞

しゃぼん玉や水の中の泡、出来たと思うとすぐ破裂して消えてしまう。そして、その短い時間は美しい。生き物も生まれて消えていくところがどこか似たように感じた。しかし、儚い泡たちも集まると少し逞しく見えてくる。

その思いを作品にしてみた。

写真　中村 博「大笑い」岩田屋三越賞

この度は「岩田屋三越賞」を頂きまして有りがとうございました。

九重の乗馬クラブで撮影しました。掃除の途中で男の子が馬に「えさ」をやった時に馬の顔が変な顔になり女の子が様子を見ておお笑いしたので、その姿を撮影しました。

これからも頑張りたいと思います。

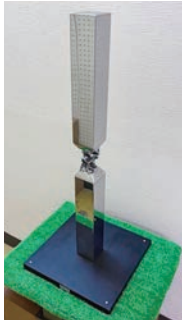
福岡視覚特別支援学校への作品寄贈報告

彫刻部正会員　三好 道雄

福岡県立福岡視覚特別支援学校（筑紫野市牛島）に2年間勤務するなかで、観ることだけが鑑賞ではないと実感できました。観ることが難しいなら、触れる事と対話による鑑賞に変えればいいと考えました。彫刻は触って鑑賞することができる立体作品です。使われている素材も様々です。

素材が違えば感触も変化します。さらに対話を通して感じたことを言葉にすれば鑑賞がより深いものになっていくと思います。

作品に触れることで何かを感じることができればと願っています。



2024 ふくおか県障がい児者美術展

ふくおか県芸術文化祭 2024「絵画・書道・写真」

昨年同様福岡県美術協会より審査及びギャラリートークのため絵画に宇田川宣人（洋画部会員）さん、書道に鐘ヶ江勢二（書部会員）さん、写真に川島幹夫（写真部会員）さんを推薦致しました。

表彰式とイベント

令和６年12月22日［日］
九州国立博物館（太宰府市）050-5542-8600

審査員と受賞者によるギャラリートーク
14:10～14:40

展覧会

- 令和6年12月3日［火］－12月8日［日］
  北九州市立美術館黒崎市民ギャラリー
  （093-644-5206）
- 令和6年12月17日［火］－12月22日［日］
  嘉麻市立織田廣喜美術館（0948-62-5173）
- 令和7年1月7日［火］－1月13日［月・祝］
  福岡県立美術館（092-715-3551）

謹んでお悔やみ申し上げます。

- 安達 弘記さん（90歳）洋画部正会員 令和6年1月
- 笠　薫水さん（90歳）書部正会員　令和6年7月
- 安藤 麗風さん（67歳）書部正会員　令和6年8月
- 紙野 菁華さん（75歳）書部正会員　令和6年8月

2024 福岡県シニア美術展を終えて

彫刻部理事・シニア美術展実行委員長 山本 隆明

今年度の開催は、初夏からの猛暑続きで応募総数は少し減少しましたが多くのシニアの皆様にご応募頂きました。前回に続き、会期を分けずに全部門の作品を一堂に展示し、多くの方にご観覧頂き、充実した展覧会になりました。また、多くの会員を始めとした関係各位のご協力に感謝します。

県知事賞（彫刻の部）泉谷 建一さん（90 才）83 才より彫刻を始められたそうです。カップ麺を食べているカマキリなど、ユニークな作品で観る人を楽しませてくれます。今年の作品は丸太１本から作り出したもので、仕事で乗っていた漁船と灯台、鳥を組み合せたものです。

シニア展を励みに制作しているとのことです。

シニア展会場にて「祝 船」

会員展に寄せて

公益社団法人福岡県美術協会 名誉会員（写真部）榊　晃弘

今年はコロナ禍から解放されて、第79回福岡県美術展覧会も盛会裡に終わりました。体温と競うような暑さも、どうにか落ち着いたようですね。会員のみなさん、来年の第80回記念展に向けて、すでに制作を始めておられるのではないでしょうか。

今日は、私の所属する写真部門について感想を述べさせていただきます。近年スマホの普及などで写真に対する関心が高く、展覧会が始まると、観覧された方々からも色々な声が寄せられています。

会員の部の展示のことですが、今年の例では「類似作品と思われる作品を出品するのはおかしい。一般公募の模範とすべき会員だからこそ、類似作品は出品すべきではないのではないか」とのご指摘で、長年にわたり作品の発表を続けてきた私にとって、穴があったら入りたいような気持ちにもなりました。

写真に限らずそうだと思うのですが、カメラという機械を使って作品を創出する写真芸術だからこそ尚更に、オリジナリティが芸術というものの核心を成すものであり大切にしなければならないものだと考えて来たからです。

会員のみなさん、県展への作品応募にはくれぐれもご留意を。美術の普及・振興に寄与する、公益社団法人福岡県美術協会会員としての誇りを持とうではありませんか。

「IT、AI 技術を巡って」

広報委員長・彫刻部会委員 津田 三朗

近年、AI が生成した絵画が公募展で受賞するなど、従来の PC による制作支援とは異なる制作手法の登場で、個人の技能や経験値を越え、発想を含めた自動生成が可能となりました。結果、我々の創造の世界はさらに進化し、IT、AI 技術は、美術や音楽に留まらず、文学の世界、芸術の新たな可能性を拡大しています。

長く美術の世界では、模倣やデッサン、スケッチが技術向上の道であり、そうした研鑽が不可避と考えられて来ました。ペンや筆を動かして上達する努力、修業が必須とされました。AI はそうした修行を飛び越えて、プロンプト（AI に送る指示文）の入力でプロ以上の絵を完成させてしまいます。この事は、どこか後ろめたく、手抜きと思われてしまうのですが、様々なクリエーターが個々の得意な分野で共同制作をするのと同じく、従来の個人の技術の枠を越えて新たな創造の道を開拓したとも言えます。

写真のデジタル化に伴い、焼き込みや多重露光等の従来のフィルム技術はソフトウェアへと替わり、記録性の高い画像制作から編集加工性の高い画像制作へと変化しました。AI の活用やレタッチで、外側にあった画像を自身の内にある画像へと加工、変換することが容易く可能になったのです。以前の写真における補正と修正は、演出となり、光で描かれた写真の新たな技術となりました。しかし、重要なことはどの様な技術を用いるかではなく「作品がいかに芸術的であるか」で、人の心を動かす作品なのかどうかなのです。IT、AI を基盤とした新しい技術は、効率や好奇心による進化を続けるだけでなく、人間性と社会性（良心や道徳）を尊重しつつ、芸術を支え表現の可能性を拡大する力になり得ると考えています。

皆さんはどうお考えになりますか？

「福岡県立美術館開館60周年に寄せて」後編

新福岡県立美術館は2029年の大濠公園に開館を目指し、現在整備計画に沿って準備が進められていますが、それに先駆け、福岡市民会館が来年2025年3月28日に、新たに福岡市民ホールとして誕生いたします。現福岡市民会館（1963年開館）は、福岡の舞台芸術の牽引役として誕生し、翌年開館した福岡県文化会館（1964年開館）と共に、長きに渡って福岡の芸術、文化の礎としての役目を担って来ました。この二つのシンボルが生まれ変わる事に、大いに期待をよせたいところです。そして温故知新、陽光に映える現県美術館外壁の博多献上織り柄のように、連綿と続く文化、芸術への思いを紡いでいく事が、県美術協会の使命のようにも感じるのです。

（広報委員長 津田三朗）

福岡県立美術館開館60周年に寄せて

（会員寄稿文）

―1964年福岡県文化会館から1985年県立美術館に改装会館されてから現在までの60年間の会員各位の心に残る一葉の思い出。（後編）―　※前編は前号に掲載

「藍の詩・松枝玉記遺作展」が平成4年1月に福岡県立美術館と朝日新聞社主催により開催されました。筑後の風土に培われた伝統工芸久留米絣の制作に真摯に向き合った玉記の顕彰を18～84歳までの詩情溢れる収蔵品31点に初期作品の裂や大作壁掛「福寿の海」を含む83点が展示され、関係者の手作りによる創作パネルやお力添えには感銘を受けました。県立美術館開館60周年を迎え伝統工芸への深い考察とご理解、ご支援に深謝し、新美術館の完成に希望を籠めて更なる発展をお祈り致しております。

（工芸部・松枝小夜子）

県立美術館開館60年おめでとうございます。県展に2回受賞し、1983年美術協会会員になれたことを有り難く思います。昨年度は入会40年表彰を下さいました。しかしアートってお金とか名声とは関係なく、桃山でも常滑でも今に残っている本当にいい物は全く無名の陶工が無心で作った物、「古唐津」にしても「破袋」でもそうです。私の唯一の楽しみは窯焚きと窯出しのあの喜びです。

（工芸部・橋上保太）

中学の時、先生が重々しい一冊の本から、一枚の絵を見せてくれました。ツタンカーメンは前評判がすごく、人人人の中でしたが迫力で、感動しました。また県立美術館で随分前に「筆遊び」と題して、想いの言葉を楽しく書く展覧会をさせて頂き感謝しています。アート・芸術は、震災で傷ついた心の癒しや、生活の中の潤いにもなれる気がします。「新美術館は輝きです」

（書部・荒木芳昌）

1979年会員となり45年が過ぎた。61歳の時ワープロが出来ると云う理由で、副委員長（県民美術啓発担当理事・シニア展担当）となり、委員長には榊晃弘氏、監事に引頭勘治氏がおられ、田舎者の私は大いに助けてもらった。

一番の思い出は、シニア展の賞状作成。水上さんと原稿と賞状用紙を抱えてキンコーズへ。賞状用紙の金粉が複写機の高圧ローラーに害を与えないか、大変な作業であった。飾付指導から賞状作成・賞状授与までの全部をやっていた当時の懐かしい想い出である。

（写真部　井口益次）

美術館は県展の会議の場としての印象が強く残っている。1985年から県展での外部審査員であった写真家 奈良原一高の写真集「ヴェネツィアの夜」に衝撃を覚え、公募展に挑戦、運良く2回の受賞作品として選ばれ、この受賞がきっかけで写真活動にのめり込んだ。松尾写真部委員長時代の写真家立木義治、その後迎えた写真家田沼武能との県展審査。県展の会議では異分野を含めた多くの人たちと意見をぶつけ合い議論した。これらの記憶を辿るとそれは美術館の会議室となる。もう見ることのできない須崎公園の噴水が懐かしい。

（写真部・中村金次）

―以上、各部会員の皆様、ご寄稿ありがとうございました。―

1968年に開園された大きな噴水のある須崎公園は、建設工事とともになくなりましたが、新たな福岡市民ホールの前庭として、生まれ変わりつつあります。いよいよ来春に誕生する福岡市民ホールの今後が楽しみですね。

来春完成の福岡市民ホール前庭

美県 けんびウォッチング

福岡県立美術館

中村研一と中村琢二展

重なり合う、まなざし。

2024年12月21日(土)▼2025年2月2日(日)

福岡県立美術館〈4階展示室〉

中村 研一〈サイゴンの夢〉1947年

中村 琢二〈子犬と女〉1968年

福岡県立美術館「スクール・ミュージアム事業（アートコース）」美術協会員6名を講師として招聘

福岡県立美術館では、県内の公立小・中・高等学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校の児童生徒を対象に作品鑑賞を通して美術に対する興味関心を高めることを目的としたスクール・ミュージアム事業を実施しています。今回、県展会期中に5校が来館し、彫刻、写真、日本画、工芸、デザイン、洋画、書の各会期で優秀作品を鑑賞しました。その際、美術協会員の津田三朗氏、永友義夫氏、筒井知徳氏、宇美拓哉氏、鐘ヶ江勢二氏、矢野莱山氏に、作品解説や実演をしていただきました。作品の見方や感じ方へのアドバイス、制作過程の実演など、児童生徒はもちろん、引率の先生方からも大変好評をいただきました。

（福岡県立美術館　普及課　高橋　大輔）

Since1951
SHIGEOKA
愛される建物をつくり続けて
重岡工務店
www.shigeoka.co.jp
〒810-0014
福岡市中央区平尾5丁目3番15号
株式会社 重岡工務店
TEL(092)521-0777
FAX(092)531-3322
info@shigeoka.co.jp

〈賛助会員のご紹介〉

多くの企業のご支援をいただいています。

- 九州電力㈱
- ㈱ 福岡銀行
- 西部ガスホールディングス㈱
- 西日本鉄道㈱
- ㈱西日本シティ銀行
- ㈱九電工
- 九州旅客鉄道㈱

- 朝日自動車㈱
- ㈱味の兵四郎
- ASOポップカルチャー専門学校
- 有澤ホールディングス㈱
- ㈱岩田屋三越
- ㈱ヴォイス
- ㈱ACR
- ㈱エターナルラボ
- 大松隆税理士事務所
- 北九州書道協会
- ㈱喜多屋
- ギャラリーSEL
- ㈱久原本家グループ
- 健康住宅㈱
- 社会福祉法人 さわやか会
- ㈱サンビルテックシステム
- ㈱上海堂
- 祥文社印刷㈱
- ㈱新出光
- ㈱杉田写真館
- ㈱ゼンリン
- 太宰府天満宮
- タマホーム㈱
- ㈱テレビ西日本
- 東美 福岡店
- 長門博之法律事務所
- 学校法人中村学園
- 学校法人中村産業学園（九州産業大学 九州産業大学造形短期大学部）
- ㈱中村美術堂
- 日本デザイナー学院
- ㈱博運社
- 筥崎宮
- 晩香堂
- ㈱樋口工業
- 福岡芸生美術会
- ㈱平助筆復古堂
- 墨扇堂
- ㈱みぞえ画廊
- ミナミ画材
- 南谷総合法律事務所
- ㈱山本文房堂
- 文房四宝 和美創

令和６年度 地域文化功労者表彰（文化庁表彰）

鐘ヶ江 勢二　副理事長・書部会委員長

京都府民ホール表彰式会場にて

昭和56年(1981)に福岡県美術協会に入会し、平成14年(2002)より理事、監事、副理事長を務め、22年が過ぎました。この長きにわたり継続して職責を果たすことができましたのは、多くの皆様に力強いご支援をいただいたことによるものと心より感謝しております。

しかし現在、少子高齢化、経済状況の変化、趣味の多様化などにより、県展およびシニア展の出品数は減少傾向にあります。新県立美術館の建設計画が進む中、この課題をどのように克服すれば良いのか、難しい問題に直面しています。

これからも引き続き福岡県美術協会の活動を中心に、地域の芸術文化の振興に努めてまいりたいと心新たにしている次第です。会員の皆様には、今後ともご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

令和６年度 福岡県地域文化功労者表彰

江藤 紀世　日本画部正会員

私は長年の中学校美術教師としての勤務の途中から日本画を描き始め、北九州の西日本画連盟の会員となりました。第二の人生に入った時から県美術協会の部会委員、副委員長、理事、及び西日本画連盟の副会長、会長として、微力ながら日本画愛好の方々がより意欲的に制作できるよう、又、より愛好者が増えこの道が更に発展できるようにと、勝手な使命感をもって取り組ませて頂きました。
また自分自身が独りよがりにならぬよう、日本の三大美術団体である院展へも、この20年間出品し、未熟ながら絵画に於ける真実を追求して来ました。

この度の受賞はたゞ自分の好きな事を楽しんでやってきた者としては、意外であり厚顔さが恥ずかしくもあり、もっと社会のために尽力されている方々に対し申し訳なく思います。けれど、27年程前より伝統ある日本画を更に多くの方々に広げていきたく、私塾ではなくカルチャーセンターや市民センター等５ヶ所の講座講師をし、計100余名、現在籍50余名の受講生の方々が、色々な公募団体に所属したり、生涯の生きがいとして、共に次世代に向けて活動している事は誇らしく、ちょっと頭をなでて褒めて頂いたようで嬉しいです。

この受賞に向けてご尽力頂いた方々に心より感謝いたします。有り難うございます。

令和６年度 久留米市功労者（文化振興）表彰

井口 益次　写真部正会員

永年にわたり写真作品の制作を通じて地域の芸術文化の振興と発展に貢献されたことによって、久留米市功労者の称号を贈られ表彰されました。

部会だより

洋画部 | 県展審査員 坂口寛敏氏 講演会・懇親会

第78・79回福岡県美術展洋画部門の外部審査員を勤めて頂いた東京芸術大学美術学部名誉教授坂口寛敏氏による講演会と懇親会を令和６年8月７日に八仙閣本店にて開催しました。「私の美術活動」を演題に、自身による国内外でのインスタレーション展示やパフォーマンス活動から得た体験や経験談、また、それを通して築き上げてきた哲学を基底に次の活動へのコンセプトを広げていくというお話を画像や映像を交えながら熱心に語られました。会場には協会員のみならず、外部からの参加者も多くみえていて、皆さんの興味津々に聞き入る姿から大変に充実した講演会になったと感じました。

（洋画部会委員長　宇美 拓哉）

書部 | 第79回県展 入賞・入選者、書部会正会員合同祝賀会および講演会

９月29日(日) 県展表彰式当日、福岡リーセントホテルにて、早稲田大学講師の財前謙先生を講師にお招きし開催した。講演では、作品制作に於ける基本的な心構えについて、ユーモアを交えながら分かりやすくお話しいただいた。歴史の大きな流れの中で現在の書の状況を見つめ、今後の方向性について考える契機となり、充実した講演会だった。参加者200名は、懇親会で会員同士親和を図ることができ、素晴らしい祝賀会となった。（書部会委員長　鐘ヶ江 勢二）

salon
the
rely
2024.12.19
10th Anniversary
salontherely.jp
美容室 サロン・ザ・リライ
802-0006 北九州市小倉北区魚町3-3-8-2F
受付時間／10:00〜20:00
定休日／月曜日
tel.093-541-7748

fas gallery
展覧会・出版のご案内

◉展覧会の予定については諸事情により変更となる場合があります。開催の有無をご確認の上、お出かけください。

阿部直昭 新春 作品展

■1月13日(月・祝)-1月19日(日)
■ギャラリー 風

新春を迎え、新しい自分を見い出す為の個展です。抽象、具象含め約30点を出品します。
(阿部 直昭)

「春の訪れ」阿部 直昭

園こうじろう作品展「Art Photo exhibition」

■1月20日(月)-2月2日(日)
■アートスペース 貘(baku)

写真はフィルムからデジタルに、そして、アートフォトに。
(園 こうじろう)

「TABITO」園 こうじろう

福岡市美術連盟30周年記念 第17回 チャリティー展

■1月27日(月)-2月2日(日)
■ギャラリー 風

福岡市美術連盟は令和7年に30周年を迎えます。それに伴いいろんな催しを検討しております。その第1弾としての年初めのチャリティー展です。例年より会員一同、力が入っています。たくさんのご来場お待ちしております。
(福岡市美術連盟事務局　中村 俊雅)

第91回 独立展

■2月18日(火)-2月23日(日・祝)
■福岡市美術館

国立新美術館で開催された第91回独立展の内から会員作品、受賞作品、地元作家の作品約94点の絵画作品を展示するものです。
(中原 未央)

「How-mube」中原 未央

福岡二紀展

■3月11日(火)-3月16日(日)
■福岡市美術館

本展覧会は、国立新美術館で開催された二紀展に入賞・入選した作品(絵画46点、彫刻2点)を展示。
(大橋圭介)

「漂泊するもの」
滝　純一(二紀会 理事)

第108回 二科展 巡回福岡展

■3月18日(火)-3月23日(日)
■福岡市美術館

巡回作品＋地元作品(県美術協会会員を多数含む)絵画・彫刻・デザイン・写真の4部門約300点を展示します。
(田浦 哲也)

「宇海の舟」田浦 哲也

峰松由布子・横山佳美 日本画二人展

■3月24日(月)-3月30日(日)
■ギャラリー風 1階・2階

9年ぶりに開催する、第2回目となる二人展。50号から100号の大作や小作品を20点程展示予定。
(峰松 由布子)

峰松由布子・横山佳美

第31回 筑豊洋画作家協会展

■3月25日(火)-3月30日(日)
■田川市美術館 ギャラリーB

阿部直昭、是澤清一、柳田順子、小川かおり他。筑豊の洋画作家達の作品をご高覧下さい。
(小川 かおり)

「残存 I」小川 かおり

19th チャリティー 滝口文吾作品展

■3月25日(火)-3月30日(日)
■ギャラリーSEL

隔年開催(生キャンバス・油彩)花を描いた小品45点
(滝口 文吾)

「エンジェルピンク」滝口 文吾

3人展

■3月31日(月)-4月5日(土)
■ぎゃらりいサムホール

示現会の仲間 石川、福岡、久留米の3人展です。今回で3回目の開催となります。日常の何気ない風景を多彩な色と表現で作品にしました。
(秋吉 ヤス子)

「放課後」秋吉ヤス子

「父のいた作業場　片隅で」瀧井 利子

「私の織」富永久仁代工芸作品 自然により添い 子供・孫・曾孫達の着物展

■4月8日(火)-4月13日(日)
■福岡県立美術館

糸を染める、機に座り続ける45年を過して参りました。それはまた創る姿勢を問い、ものの見方を学び続ける長い道のりでもありました。
(富永 久仁代)

「早春の譜」黄と格子

第78回 示現会 福岡展

■5月20日(火)-5月25日(日)
■福岡市美術館

日展系絵画団体。4月に東京国立新美術館をスタートし、全国13か所にて巡回。巡回作品と地元福岡、久留米等の作品を展示致します。
(瀧井 利子)

「送電塔のある空」井上　武

八久保卓爾 個展 ーさわやかな光の詩ー

■6月24日(火)-6月29日(日)
■ギャラリーSEL

水彩画を中心に国内、海外風景や静物の作品、さらに油絵数点を含め約40点の作品を展示します。
(八久保 卓爾)

「アーチの石橋 エスタン」八久保 卓爾

東区美術協会展

■7月1日(火)-7月6日(日)
■ギャラリーSEL

福岡市東区在住の者を中心に、日本画、洋画、工芸とアートを愛する者達の集まりです。今回は第23回展となり、力作が揃ってます。
(富永 幸子)

編集後記

新たな市民ホールがいよいよOPENする。建物は明るくキラキラして見える。その横で、大きな古木に囲まれていた美術館の全体像が露になった。ある時まじまじと眺めた。1985年バブル景気の真っ只中、新たな時代の風を感じ、先人たちがこの福岡の文化・芸術への熱い思いを込めてスタートした館であったことを知った。いよいよ将来、県立美術館は新しくなる。でも、もし中身が旧態依然のままであったなら、先人たちのような熱い思いを未来に繋ぎ残せるのか、作品制作もまたしかり、と考える時がある。　(広報委員：古木 青翰)

▶ギャラリー 風……tel 092-711-1510
▶アートスペース 貘……tel 092-781-7597
▶福岡市美術館……tel 092-714-6051
▶田川市美術館……tel 0947-42-6161
▶ギャラリー SEL……tel 092-741-4890
▶ぎゃらりいサムホール……tel 03-3571-8271
▶福岡県立美術館……tel 092-715-3551

【広報担当理事】●(デザイン)佐土嶋文香 【広報委員会】● 委員長：(彫刻)津田三朗 ● 委員：(日本画)峰松由布子／(洋画)大塚美和子／(工芸)津留崎順子
(書)古木青翰／(写真)高良慶治・植松佳春／(デザイン)市丸美波子